

日程第２．一 般 質 問

○議長（倉又 稔君）

日程第２、一般質問を行います。

発言通告者は１２人ですが、議事の都合により本日５人、７日５人、８日２人を予定しております。

一般質問の質問時間は、答弁を除き１人３０分であります。

所定の時間内に終わるよう質問・答弁とも簡潔に、要領よくお願いいたします。

また、質問は通告の範囲内にとどめるようにご協力をお願いいたします。

通告順に発言を許します。

笠原幸江議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。〔２番 笠原幸江君登壇〕

○２番（笠原幸江君）

おはようございます。

創生クラブ、笠原幸江です。

１回目の質問をさせていただきます。

１、「ジオの食材を食べろう」２０・１０・０運動の検証と課題について。

２０・１０・０運動は、市民にとってどちらかと言えば理解度が低く、「生ごみ」の減量に効果を上げているか疑問に感じているところです。

当市は、平成２３年に策定したごみ処理基本計画の中で「『もったいない』の心１０か条」を定めており、平成２７年度には１日一人当たりのごみ総排出量を８９０ｇにするため、平成２６年３月から食べ残しをゼロにすることを目標とし、ごみの減量化を推進しています。２０・１０・０運動もその一環と理解しています。

また、生ごみ処理機設置費補助金制度にも力を入れており、平成２５年度までに５７５台を購入され、多くの市民からごみの減量に協力をいただいているところです。

私は、平成１９年９月定例会、平成２５年１２月定例会に「ごみの減量化について」を一般質問しており、今回で３回目となりますが、今後、次期ごみ焼却処理施設整備の計画が検討されることから、ごみの減量化は当市にとって喫緊の課題であり、人口減や高齢化に伴う対応とごみの減量化をさらに進めるための観点から、以下の項目について伺います。

(１) ２０・１０・０運動を開始して以来、市民の反応と減量の効果はいかがか。

(２) 生ごみ処理機の現状はいかがか。

(３) ごみ処理に係る一人当たりの年間経費を合併後の平成２６年までどのように分析しているか。

(４) 高齢者への分別周知について。

(５) ごみ減量のための分別方法と次期ごみ焼却処理施設について。

以上、1 回目の質問を終わります。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

米田市長。〔市長 米田 徹君登壇〕

○市長（米田 徹君）

おはようございます。

笠原議員のご質問にお答えいたします。

1 点目につきましては、啓発用に作成いたしましたコースターが好評で、増刷を行い対応いたしております。

平成 26 年度のごみの総排出量は、前年度と比べ 2.7 % の減少となっております。ごみ減少効果は出ているものと思っております。

2 点目につきましては、合併から平成 26 年度までに 725 台の購入助成を行っております。

3 点目につきましては、1 人当たりのごみ排出量は年々減っておりますが、1 人当たりのごみ処理経費は平成 22 年度から増加傾向となっており、増加の要因といたしましては、運転管理委託料の見直しなどによるものと分析いたしております。

4 点目につきましては、地区などでごみの分別説明会を実施いたしております。

5 点目につきましては、現在、次期ごみ焼却施設の基本設計中であり、ごみの排出見込み量に合わせた適正な施設規模や減量、分別方法などによって総合的に検討を進めてまいります。

以上、ご質問にお答えいたしました。再度のご質問によりましては、所管の部・課長からの答弁もありますので、よろしくお願い申し上げます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2 番（笠原幸江君）

ありがとうございました。

2 回目の質問をさせていただきます。

なぜ私がこのように質問しましたかと申しますと、実は 20・10・0 運動、これは市民の皆さんにとってはまだまだ理解が薄い、低い。それから集合的に飲食、大きな食事をする場所において、これが使われてないという現状を見てきました。大変これが今、市長は有効に使われているということなんですけれども、私は少し不満を持っております。糸魚川市がこれを一生懸命に進めようとして、皆さんにお願いしているにもかかわらず、しっかりとこれが浸透していないというのが、現状ではないかと思っております。

ところで開始したとき、スタートしたとき、このコースターの配布先はどのように周知されたか聞かせてください。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

おはようございます。

20・10・0運動がスタートしたときにつきましては、市内飲食店へのコースターとともに案内状を送付するとともに、あと商工会議所、商工会へ配布依頼をするとともに、この20・10・0運動の趣旨とともに各加盟店等への配布もあわせてお願いをしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

商工会議所、商工会、本当に協力していただかなきゃいけない団体だと私も思っておりますが、実は市長、先ほど答弁の中に増刷もしているってということなんですが、わかる範囲でいいんですが、どれぐらいの枚数を印刷されておりますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

当初、コースター、平成26年3月に1万枚を作成いたしました。その後、平成26年11月、それと平成27年9月、今つい最近でございますが、それぞれ3,000枚ずつ増刷をさせていただきました。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

ただ、20・10・0運動と言われても何のことというのが、今、大方まだ市民の方が、それ何というのが普通なんですが、インターネットのホームページなんかでも見ましても、担当課の方が、こういう形のものをしっかりとつくっていただいて、その会場の幹事さんにこの手順でやってください。当初のうちは、皆さん一生懸命取り組んだ時点ではよかったんですが、昨年、あるいは集合で集まって飲食するときには、実はこのコースターが使われてないんですよ。

何が使われてるかと言うと、皆さんもご存じだと思いますが、糸魚川市地酒の魅力発信実行委員会、商工会議所が事務局になっているんですが、このコースターがとっても多く使われております。行きたんに、私はショックを受けながら帰ってくるんですけども、こちらの裏面には、地酒で乾杯宣言のまちなんだよということもしっかりうたわれてまして、両方、糸魚川市が進めようとしているこのものを、こちらの地酒で乾杯、これは銘柄、製造会社も入ってます。それから裏面のほうには、私たちはこういうことでやってます。私はこの中に、糸魚川市が進めている20・10・0運動を推進してますとか、応援してますというちょっと活字が踊っていれば、私もそうだな、一体感と一緒にごみの減量に取り組みましょうという姿勢がおうかがいできるんですが、残念なことに糸魚川市は、それを両面に刷って進めているにもかかわらず、そういう現状が本当に多いです。

+

それはとっても残念で、それをやったからって、すぐごみが減量になるわけではないんですけども、一緒にやりましょうといったところの気持ちがばらばらでは、何をやっても私たちは私たち、市にお願いするときは、おねだりすればいいだろうというような考え方では、これから何事の取り組みにも、それはあまりいい状態ではないんじゃないかと思っているんです。

ところで、糸魚川市が直接関係している能生にあります権現荘、能生事務所長にお伺いしますが、どちらを使っていますか。どちらを主に使っているのでしょうか、お聞かせ願いたいです。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

お答えいたします。

今、笠原議員がお見せいただきました地酒で乾杯のほうが、数としては多いですね。今のストックは、それを使っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

おかしいじゃないですか。市内の商店の、あるいは飲食店の人が、こちらを多くを使っているというのであれば、まあこの人たちも一生懸命にお酒の消費活動に応援しなきゃいけないという気持ちはあるかもしれないけれども、当市の能生事務所の管轄の場所で、こちらが多いというのはなぜですか、何でこっち使わないんですか。あそこは全国的にも、いろんなところからお客様がおいでになる、宴会も多い、これは何で使わないんですか。その指導はしてらっしゃるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

これは私のほうの指導不足といえますが、手落ちの部分がありますので、今後はそちらの20・10・0運動のプリントしたものを積極的に使っていきたいと思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

能生事務所長の指導が悪いということじゃないんですよ。確かに今、議場にいるのは能生事務所長ですけども、支配人ですよ、総支配人。この方が意識を持ってやらなければ、現場の担当、トップの方がやる気がなかったら、いくら指導してもだめなんですよ。私、能生事務所長を責めてはおりませんが、そこの特に権現荘というのは管轄は能生事務所さんでしょう。これを最初から使わないでどうするんですか。じゃあ地酒で乾杯宣言だけを使って、これはじゃあどこから手に入れているのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

原能生事務所長。〔能生事務所長 原 郁夫君登壇〕

○能生事務所長（原 郁夫君）

商工会さんのほうから紹介をいただいていると思います。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

いみじくも地酒で乾杯、それいいですよ。ここにも書いてあるんです。ここには各事業所の名前が載っているけど、こちらには載ってないんですけども、これ意識の問題なんですよ。だから当市は、市が進めているものに協力しますよということをはっきり言って、これご遠慮しますということは何で言えなかったんですか。本当にせつないですよ、いろんなところでほとんどこれです。

ちょっと調べてみたら、糸魚川市の窓口まで取りにくるの大変なんですよ。だからもしこれが商工会議所に置いてあれば、近くのところに飛んで行けるし、できたらこれを庁内だけじゃなくて、出先機関にも置いていただけないでしょうかという話があるんですが、どのように考えます、それもやってみたいなと思いますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

笠原議員ご提案のとおり、今回、増刷した分を含め、両事務所のほうへ配置をさせていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

それで、この実行委員会に補助金が出ております。この補助金は3年間とお聞きしているんですけど、間違いないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

渡辺交流観光課長。〔交流観光課長 渡辺成剛君登壇〕

○交流観光課長（渡辺成剛君）

お答えします。

地酒の魅力実行委員会は、3年間ということで補助金を出したいというお話を、今現在させていただいているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

+

笠原議員。

○ 2 番（笠原幸江君）

ちょうど平成 27 年度で、その 3 年間の補助金が終わるとお聞きしておりますが、今後、印刷するときに、この糸魚川市地酒の魅力発信実行委員会が平成 28 年度も続くことを希望しておりますけれども、印刷かけるときに、ここの実行委員会が今後、自主自立でやっていくかどうかも確認した上で、商工会議所の事務局と一緒に相談していただいて、お互いに整合性を持たせるようなコースターに進められるような検討をしていただきたいと思いますと思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

新しいコースターを作成するに当たって、今後、そちらの実行委員会は実行委員会の組織の目的があって、その目的達成のためにそういうコースターをつくってるという事情もございますので、その辺を含み、今後また市で今つくっているものに統一できるかどうかを、その実行委員会のほうと協議をしてまいりたいというふうに考えております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○ 2 番（笠原幸江君）

それから、そういう反面もう 1 つ声がありまして、紙コースターでなくて何回も使えるようなコースターも研究してもらえないかという声もあります、お店のほうから。というのは、ごみのお話をしているのに、またごみの話になっちゃうんで申しわけないんですが、これ 1 回使って汚れちゃうと、またごみになっちゃうんですよね。だから繰り返し使えるような、お店の方が洗って、また消毒して使えるような、そんなのもいいねというような声もありますので、それも要望しておきますが、返事は要らないですので、そんなことも市民の皆さんの中から声も上がってますので、ぜひ検討してみてください。

それから、2 番目の生ごみ処理機の現状なんですけれども、いかがでしょうか。平成 26 年度までの数字は、おおむねお話は聞いているんですけれども、平成 27 年度に入ってから動きはいかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

平成 27 年度は 8 月末現在で、電動型で 14 台の購入助成をいたしております。

以上です。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○ 2 番（笠原幸江君）

始めた平成 21 年度からの数量から見まして、一番たくさん出たのが平成 24 年度でありますね。それで今、14 台ということなんですけども、今後、この制度をどのような形でもっていくか。私はそろそろ検討していただいてもよろしいのではないかと考えてます。壊れるものでもありませんし、ある程度、電気で攪拌して、さびるということはあると思いますが、その後の買われた方の追跡調査とか、そういうのはやってもらっちゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

生ごみ処理機の補助制度につきましては平成 24 年 10 月から、それまでの補助率が 2 分の 1 だったのが 4 分の 3 というふうに補助率をアップし、また、上限を 2 万円から 6 万円ということに相当に大幅な改善をした関係で、平成 24 年度は相当な数が出て、平成 25 年度も電動生ごみ処理機につきましては相当出ております。

それで昨年度、平成 26 年度からいまいち購入助成の申請の動きが少し落ちてきておりまして、先ほどお答えしたように電動のほうで 725 台、コンポストのほうも合わせると約 2,000 台、合併以来、購入助成をしております。ということは、こういう生ごみ処理機を購入されたい方については、ほぼ行き渡ったのかなというふうにも感じております。ですので今後、補助率を含め、この助成制度をどのようにしていくか検討させていただきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○ 2 番（笠原幸江君）

ぜひ見直しをされて、また、その先をどうするかということを考えていただければ、いいのではないかなと考えております。

ところで、この生ごみ処理機というのは、処分するときは何の扱いになるのでしょうか、分別的には。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

コンポストのほうは廃プラスチックということで、埋め立てごみということになると思いますし、電動型のほうはいわゆる家電製品の 1 種ということで、金属類になるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○ 2 番（笠原幸江君）

購入段階から処分するまでのストーリーをつくっておかないと、使われなくなったものが自然ごみ、いわゆる金属として出てくる、だんだんその時期に入ってきてると思いますので、そこもしっかりと取り組んでいただきたいと思いますので、お待ちしております。

3番目のごみ処理にかかる1人当たりの年間経費、これいかがでしょうか。皆さん、どのように分析してらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

先ほど第1回目の市長の答弁でもお答えしましたように、平成22年度ころから1人当たりの当市のごみ処理経費については増大しておりまして、その前については全国平均で、大体1万4,000円程度ということになっているんですけども、今現在、平成26年度ですと1万7,000円ということになっておりまして、県内平均も全国平均と同じ1万4,000円程度ですので、今現在の糸魚川市のごみ処理経費につきましては、全国平均よりも高い傾向にあるということで、その原因につきましても、先ほど市長答弁の中で申し上げたとおりでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

じゃあ確認させてください。平成26年度で1人当たり年間1万7,448円、そうしますと平成25年度は1万5,312円、確実に1人当たり年間のご家族で計算、お1人の方、お2人の方、4人家族の方はそれに掛けていただければ、年間の経費が出てくるんですけども、先ほど市長の答弁でお答えしたと言いますけれども、いま一度この推移、ずっとデータを見ますと上がっているんですね。今、平成26年度で最高の位置に上がってます。全国平均よりも上がっているとは言っても、糸魚川市にとっては1人当たりの経費が1万7,000円というのは、それはどのようにして分析して、もう一度確認させてください、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

一番大きな要因といたしましては、先ほど市長がお答えしたとおり焼却施設にかかる運転委託料の見直しという部分が一番大きなものでございます。

それともう1つは、今、埋め立て処分については元、当市の最終処分場のほうへ埋め立てていたのを全て外部処理という部分が、平成22年度から経費がその分増大しているというのと、もう1つは、人口減に伴いまして焼却施設の維持管理費というのは、ごみの量が多少減ったところで、そう変わらないという面がございます。ですから、そういう意味で1人当たりのごみ処理経費が、その分も相まって増大傾向にあるということでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

私、今ここで、冒頭でも申しましたが、ごみを減量するために質問したのが3回目。何とかごみを減量して、1人当たりの経費を少なくするにはどうしたらいいかということで、さまざまな質問をしてきました。

それで、一般家庭から出るごみの減量をするために究極のごみ減量は、ごみ袋の有料だということも長い期間、学ばせていただいて、それが究極なんだよということだったんですが、糸魚川市はごみ袋に対しての有料化ということは全く考えてないでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

現段階では有料化というよりも、お一人お一人のごみを排出する量を減らしたいと。有料化でなくて、それ以外の方法をもって減量化に取り組みたいということで、取り組んでいる最中でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

ごみ袋を有料にする前に、ごみを減量しましょうということで、さまざまなことに取り組んでいる糸魚川市の姿勢をもう少しアピールする必要があると思うんですよ。ごみ袋が有料になったら、それでいいというもので私もないとは思ってるんですね。だから、こういう20・10・0運動だとか、買うときからごみを出さないようにしましょうとか、そういうのをやはり広報なんかで、もう一度宣伝をしていただきたいんですが、いかがでしょうか。

ごみ袋が有料になるよりいいでしょう。みんなで協力しましょうよ。だから先ほどまでずっと質問してきたのは、それにつながってくるわけだから。いかがですか。1回やって、新聞にも出ました。確かに、糸魚川市はこういうことをやっていますよ。新聞にも出てます、それから糸魚川市のインターネットにも出てますが、いま一度お願いするような形、とれませんか、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原市民部長。〔市民部長 田原秀夫君登壇〕

○市民部長（田原秀夫君）

お答えいたします。

ごみの減量化については資源循環型の社会を築くということで、これは糸魚川市だけの課題、問題ではございません。あらゆる手段を通じまして、また、あらゆる場面を通じてごみの減量化、また、リサイクルに努めてまいりたいと思ってるところであります。

その点で、今、笠原議員ご提案の20・10・0運動、こういうものも配布をするということだけでなく、できるところから市民一人一人が実践していただく、行動していただくようなことを考えてまいりたいと思います。そのために今後の配布につきましては、先ほどの答弁もありましたが、地酒の実行委員会の方々と連携をして、今後の取り組みを進めてまいります。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

4番目の高齢者への分別周知について伺いますが、ひとり暮らしだけでなく、今は病院から施設、施設から在宅という国の方針もあります。自宅、あるいは住みなれた土地で、住みなれた地域で暮らしたいという高齢者の方がふえてると思いますね。

しかし分別は反面、大変になってくるんですよ。面倒くさくなったりとか、分別数が、今、糸魚川市は19品目に分かれてますね。それがなかなかうまく分別ができなくなってきました。それから高齢化も糸魚川市全体を見ても、先月、統計資料を見ても大変高くなってますよね。能生地域で37.6%、糸魚川地域では35.4%、青海地域では37.4%。それにも増して地区によっては、まだ高齢化率が高くなって、お一人で生活していらっしゃる方もいます。そちらのほうの捉え方を、どのように考えていらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

笠原議員おっしゃられるように、当市の分別については県内でも多いほうということで、特に高齢者の皆さんが分別に苦労しているというお話も伺っております。

また、分別については各地区のほうへ出向いて、分別について、こういうものはこういう分別になるんだよというような説明会もやっておりますが、なかなか高齢者の皆様にとっては苦労があるというお話は、先ほど申し上げましたようにお聞きしており、ただ、この分別だけを支援できるかという、なかなかそういうわけにもいかないというふうに考えております。

ですから元気な高齢者の日常的な支援を、市全体としてどのような中で取り組んでいくかという中で、またこのごみの分別についても考えてまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

それに関連して、次期ごみ焼却処理施設、これから今、基本設計ということなんですけれども、それも踏まえてごみ処理焼却施設を今の19品目から、どちらの方向にもっていくかということも、もうそろそろ検討していかなくちゃいけないんじゃないかと考えてます。いきなり稼働したごみ焼却処理施設を今、分別してある中で、その中に、またさらに19品目を例えば16品目にするとか、

15品目にするとかということも考えていただきたいと思いますんですが、そこでの関連は、どのように考えてらっしゃいますでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

次期ごみ焼却施設につきましては、現在、炭化方式という方式でございますけども、次期ごみ焼却施設につきましてはストーカ方式ということで、平成23年、平成24年に、ごみ処理施設のあり方検討委員会というところで、その分別等についても検討をいただいております。

その中の答申の中では、廃プラスチック、こういうボールペンの外とか歯ブラシの柄、あとゴム、皮革製品、そちらのほうを今、分別と埋め立てごみということになっておりますけども、そちらのほうを燃やせるごみのほうへ移すほうが、いいのではないかとこの答申をいただいておりますので、その辺について次期ごみ焼却施設の基本設計に当たり、今年度、また検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

この分別表を見まして、今、課長がおっしゃられた埋め立てごみの中に、ごみとか革製品、かばんが入ってます。これは私、やっぱり新しくできる次期ごみ焼却施設のほうに、燃やせるごみとして出していただくとありがたいなと考えていたところです。

廃プラスチックも全く同じで、プラスチックと廃プラスチックが、なかなか高齢者にとってはわからないというか、皆、プラスチック、プラスチックって書いてあるから、ああ、これもいいのかなというふうにしてごみの中に入って、収集してもらえないという現実もありますので、ぜひそういう燃やせる中に、今、分別されているものの中で、新しい焼却施設の中で持っていけるものがあるかどうかというのは、今から検討、あるいは考えていただくといいのではないかなと考えてます。じゃあ新しい焼却施設というのは、何年に稼働する予定になってますか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

新しいごみ焼却施設につきましては、遅くとも平成32年4月1日稼働ということで、現在、計画を進めております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

それでスケジュール的にはもう近々、急がなければいけない状態にはなっていると思いますが、

炭化システムを導入して、いい状態で炭化システムが稼働していなかったことも事実であります。新しいストーカ方式にするに当たって、炭化システムのと看に失敗とは言わないんですけども、地域で自治体は循環型と先ほど申しましたけど、自分の出したごみは自分たちの地域でというのがこれ基本なので、今後、いろんな手順を踏んでいく中で、しっかりと慎重に、入札するに当たってもやっていたきたいんですけども、肅々と予定がこなされていくと思いますが、指名入札だけは避けていただきたいんですが、そういうところはいかが考えていらっしゃるのでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

現在のところ入札というか、この発注方式として設計・施工一体型ということで、当市のほうは発注仕様書ということで、このような容量で、このような性能を満たすごみ焼却施設をつくってほしいというような仕様書をつくりまして、それをもとに入札ということでございます。それで一般的には当市につきましては、通常の工事も含め指名じゃなくて、一般競争入札を採用しておりますので、ごみ焼却施設についても一般競争入札というふうな形になるかというふうに、現在のところは考えているところでございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

一般競争入札というのは大丈夫でしょうかね。私、その目的というのは何かと思って考えていたんですけど、糸魚川市の市民にとって、地元の業者さんが参入できるような形は大事だと思うんですよね。大きな工事になるとJVという形のものがあると思うんですが、ただ、一般競争入札で信頼性というのは、どの程度捉えているか。そのほかにもまだ一般競争入札以外に、どういう入札方法があるもんなんでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

藤田企画財政課長。〔企画財政課長 藤田年明君登壇〕

○企画財政課長（藤田年明君）

お答えいたします。

まず、今回のごみ処理施設を考えた場合、一般競争入札にするにしても、いわゆる何も条件のない一般競争入札にするものではないと、ある程度、過去の経歴等の条件を付した中での一般競争入札になるものと考えております。

それから地元業者の参加ということで、そちらについては、まだ今後の検討部分となります。ただ、焼却施設本体の部分については、やはり地元業者では設計・施工できない部分が多々あると思っておりますので、そういった面ではJVという形がとれるのか、また下請等での参加、そういったもので考えていくべきと思っております。

また、一般競争入札以外の方法という分では、プロポーザル方式、いわゆる提案型の決定という、

そういうものもあるかと思っております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

いずれにしろ、やはり失敗を二度繰り返さないような方法を、しっかりと信頼性のあるもの、それから実績のあるもの。ストーカ方式は故障が少ないとは聞いておりますけれども、今の時代になってきますと、コンピューター制御のものが多くなってきてますね。そうするとコンピューター制御になりますと、そのコンピューターそのものを、また5年、6年かかってくると、また新しいシステムに変わっていくというようなお話も聞いておりますので、やはりしっかりしたところをお願いしていただくのが、一番いいのではないかなと考えております。

手動でやるわけでもないし、今は全部コンピューターですよ。コンピューターを扱うのに、故障したら遠くのほうからまた呼んでこなきゃいけないとか、そういうことではなくて、地元の扱えるような人の育成というか、人材といいますか、そういうのもあわせて考えていただきたいと思うんですけど、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

次期ごみ焼却施設の方式をストーカ方式にした1つの要因といたしまして、ストーカ方式については過去の実績もあり、ストーカ方式の炉自体の信頼性もあるということで採用したものでございます。

もう1点、地元の人の人材育成ということについてでございますが、当然、運転員の皆さんについては、地元の方を優先的に採用いただけるよう、次の新しいごみ焼却施設の運転をお願いする会社のほうへは、そういう条件をつけて発注したいと思いますし、また、その中で地元の人材育成ということで、研修等を通じてある程度、心臓部のほうも理解できる人材を、その運転管理をする中で育てていきたいというふうにも、あわせて条件をつけて発注していきたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

その件については、よろしくお願いします。

さて、その新しいストーカ方式ができたときに、ただいま19品目あります分別、これは最小限にとどめるのか、このまま19品目でいくのか、その点はいかがでしょう。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

五十嵐環境生活課長。〔環境生活課長 五十嵐久英君登壇〕

○環境生活課長（五十嵐久英君）

先ほど廃プラスチックなり、ゴム、皮革製品を燃やせるごみにしたらどうかという、あり方検討委員会の答申が出ているというお話をさせていただきました。それで今年度、基本設計をする中で、そちらのほうをどのような、その答申どおり燃やせるごみのほうへするのか、今までどおりにするのかを含めまして、分別につきましては、今年度、検討してまいりたいというふうに考えております。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

方向が定まりましたら、新しい施設に市民は期待するものも大きいと思うんですね。そうすると、今、分けてある19品目が、少しでも緩和されるのかなという期待感というのがあります。19品目分けてたんだけど、じゃあ今度、何でも燃やせるんかね、プラスチックも燃やせるかねっていう話も出ております。そうしますと何も分別は19品目で変わらないんだけど、何か市民にとって少しメリットのあるようなものにしていただかないと、せっかく今、分別していらっちゃって、意識の高い方もいらっしゃるから、19品目で十分だよという方も中にはあります。ただ、先ほど申しましたように、ひとり暮らしで、地域で住みたい、地域の中で生活したいという、少し手助けをしなきゃいけないような方に配慮していただくには、高齢化率も高くなってきてますので、ぜひそここのところも加味して、今、これはいいよねというものがあったら早目に市民の皆さんに周知して、新しい次期ごみ処理施設に期待を持っていただけるような取り組みをぜひしていただきたいんですけど、いま一度いかがでしょうか。

お返事いただくと聞いている皆さん、ああ、少し形が変わって、少し分別も楽になって、高齢になっても地域に優しいごみ循環型の施設ができるんだなっていう期待も持てると思うんですが、いかがでしょうか。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田原市民部長。〔市民部長 田原秀夫君登壇〕

○市民部長（田原秀夫君）

お答えいたします。

新しい次期焼却施設にはなるべく早く稼働できるように、今、基本設計をしているところでございます。その中で期待される笠原議員の品目が19が、今、市民の方々に、また、中間処理の方々にお願いをして、ある程度定着していると、協力をいただいているということが現状でございます。

新しい施設になったたびに品目を減らしたりふやしたり、あるいは分別の方法を変えたりすることも、また混乱の1つともなりますが、今、なるべくわかりやすい分別になるように、この基本設計の中で、また、あり方検討委員会の中で総合的に考えてまいりたいと思います。

以上でございます。

もう1つありました。高齢者の方々がわかりにくいというご意見については、アンケートの中でも大変多くございます。そういうものにつきましては、この分別の方法、ごみの処理とはまた別で、

高齢者の方々が日常の生活に困っていることが、ごみの分別もありますし、冬期間の雪の処理もございいます。そういうものをどのように支援していくのがいいのか、そういうものも行政、また、各施設等と連携をしながら取り組んでまいりたいと思います。

以上でございます。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

笠原議員。

○2番（笠原幸江君）

よろしくお願いいたします。

ありがとうございました。これで私の一般質問を終わります。

○議長（倉又 稔君）

以上で、笠原議員の質問が終わりました。

関連質問はありませんか。

〔「なし」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

関連質問なしと認めます。

次に、田中立一議員。

〔「議長」と呼ぶものあり〕

○議長（倉又 稔君）

田中議員。〔7番 田中立一君登壇〕

○7番（田中立一君）

市民ネット21、田中立一でございます。

発言通告に基づいて1回目の質問をさせていただきます。

1、北陸新幹線系魚川駅・えちごトキめき鉄道開業後の課題について。

(1) 北陸新幹線沿線の騒音・振動について。

鉄道・運輸機構は、北陸新幹線沿線住民の苦情を受け、騒音・振動の2次測定調査を実施したが、その結果と対策を市はどのように捉えているか、考えを伺います。

沿線住民の苦情や要望を市はこれまでどのように調査し、対応してきたか。また、今後はどのように対応するか伺います。

(2) 北陸新幹線系魚川駅の利用状況について。

7月に実施した市の独自調査の結果をどのように捉えているか。また、上越妙高駅など他の新幹線駅の利用客調査と比較してどう考えているかを伺います。

系魚川駅利用客の駅及び駅周辺等に関する感想や要望について調査されているか。どのように捉え、対応しているかを伺います。

(3) えちごトキめき鉄道について。

日本海ひすいラインの通勤通学時の混雑緩和については、現在どのような対策が考えられているかを伺います。

開業前と比較して、利用客数についてどのように捉えているか伺います。

+